1995年5月
JSQCニューズ NO.180

発行　社団法人 日本品質管理学会　東京都渋谷区千駄ヶ谷5の10の11　㈱日本科学技術連盟内　電話　03（5379）1294

JSQCメーリング・リスト　これまでとこれから

東京大学工学部　兼子　毅

はじめに

昨年，大阪で開催された年次大会の懇親会の席上で初めてメーリング・リストのメンバーを募集してから，早いもので既に半年が過ぎようとしています．ここで，今までの中間報告と，今後の展望について述べることにします．

どのような会員が加入しているか

昨年の秋に，ともかく作って始めてみよう，ということで東京大学の大型計算機センターに依頼してメーリング・リストを開設してもらいました．一番最初に登録したのは，研究開発委員会の椿広計委員長（慶應義塾大学）と兼子の二人だけでした．その後，兼子の身近の大学関係の会員のアドレスを教えてもらい，「強制的に」加入していただきました．

昨年の年次大会以後は，大学関係と企業関係の会員がほぼ半数ずつという案配で，この記事を書いているとき，73名が登録されています．

またNifty-ServeのＦＱＣというフォーラムに一つの会議室を提供していただき，メーリング・リストのメッセージを転載していただいています．そのため，何万人という，同フォーラムの会員にもメッセージを読んでもらうことができるようになっています．

どのような話題が話されているか

開設以来半年を経過していますが，残念ながら，今のところほとんどメッセージの交換は行われていないのが現状です．参加メンバーの自己紹介がメインで，「静かな」メーリング・リストです．企業のメンバーや学生さんからの「質問」がときどき流れてきますが，熱心に答えてくれる人はまだまだ少ないようです．自分では答えられないような質問などがあっても，「その話なら××先生が詳しいと思いますよ」とか，「○○という本を読むとわかると思います」というようなレスポンスがあれば，プラスの方向に転じていくと信じています．今後参加メンバーが増えてくれば，もっと活発なメッセージ交換が行われるようになると期待しています．

「静かな」メーリング・リストではありますが，時々おもしろいメッセージが流れてきています．思いつくままにあげてみることにします．まず，尾島先生（東京理科大学）による，ＴＣ69の活動内容の紹介がありました．「こんなことまでＩＳＯ規格で決められているんだ」などということもわかり，参考になりました．石岡さん（リコー）からは，各種行事の案内を時々流していただいています．主にソフトウェアの品質管理に関係するシンポジウムなど，別のメーリング・リストやニュース・グループの記事を転載していただいています．多少お手間だとは思いますが，このようなボランティアをみなさんが提供していただければ，メンバーの情報収集のアンテナが何倍も大きくなることになるわけです．同様に，鎌倉先生（中央大学）からも，学会の行事委員会からの告知を流していただいています．将来，多くの会員がメーリング・リストに参加するようになれば，学会事務局の通信費用や事務工数の削減に大きく貢献するはずです．また，大滝先生（明治大学）や新藤先生（山梨大学）からも，研究会や編集委員会からのアンケートのお願いなどが流れてきます．このようなメッセージのやりとりが増えることによって，学会活動が広く会員に開かれたものになっていくと思います．

また，時事ネタとしては，阪神大震災における安否確認・お見舞いのメッセージも流れました．これもネットワークの特徴をうまく利用したもので，一回書き込めば，みんなに「大丈夫です」ということが伝わるわけです．

「学会」のメーリング・リスト，ということですが，おまり肩ひじ張らずに，気楽にお話ができるようなものにしていきたい．何気ない会話や議論の中から，新しいアイデアが生まれてくる，そんな「サロン」を提供できれば，と思っています．

今後どのように発展していくか

今年の4月，メーリング・リストのホストを，東京大学大型計算機センターから，久米研究室内に設置したワーク・ステーション（といっても自作の互換ＰＣに，フリーのＵＮＩＸをインストールした，という代物ですが）に移設しました．このホスト・マシンの管理者は兼子なので，かなり自由に，様々なメーリング・リストの開設が可能になりました．例えば，編集委員会，行事委員会，研究開発委員会など，委員会ごとのメーリング・リストを設置し，委員会活動の円滑化を図ることもできます．これによって，委員会の生産性が著しく向上することが期待できます．また，一般の会員のためには，ＩＳＯやＱＣサークル，実験計画法など，いくつか興味のある話題ごとにグループを作り，その話題に特化した議論ができるメーリング・リストを作ることも可能です．これによって，メンバーの積極的な参加が期待できます．さらに，品質管理学会のWWWサーバーやＦＴＰサーバーを設置し，積極的な情報発信を行うことも考えていく必要があると思います．日本だけでなく，アジア，世界に対して情報を発信していく．世界は日本からの情報発信を熱望している，と兼子は考えています．もし，すでにパソコンやワープロと電話をお持ちなら，2万円程度のモデムを購入するだけで，このメーリング・リストに参加できます．参加を希望される方は，

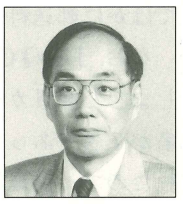
jsqc-request@tqm.t.u-tokyo.ac.jp

まで，電子メールをお送りください．すぐにメンバーとして登録いたします．是非，積極的なご参加をお待ちしています．

私の提言

「学会がなくてはできないこと」

㈱カンペ・アイ・エス・エス
福田渚沙男



理事になって学会内のさまざまな会合に顔を出す立場になってみると，いまさらながら学会の使命とはそも何であったのか，一般の会員，特に企業に所属する会員にとって学会員であることの価値はどこにあるのかといったことをイヤでも考えざるを得なくなってくる．たまたま訪ねてきた学校時代からの友人と昼食を共にしながらこの問題を話し合ってみた．彼は日本化学会の古くからの会員である．

学会会員であることの意味について彼が語ってくれたことの中に，我々にとって学会は「故郷のような存在」なのだという意味の表現があって，はっとさせられた．所属する組織の中で自分が持っている知識や技術を応用し，成果をあげていくことが企業内技術者の使命である．そういう彼等にとって学校や学会は技術の「ルーツ」であり「本山」である．組織内でどのような地位にあろうとも技術者であり続けている限りは学会からの情報は常にそれなりに有用であるし，同学の友としての組織を離れた交流の中で，日頃忘れかけていた技術者としての誇りや連帯感が再確認されていく．

対比して，企業所属の品質管理学会員の中で，学校で品質管理を専攻した人は圧倒的に少ないであろう．多くはそれを入社後に学び，組織内での実践を通じて，自己の所属する組織と一体化した形で品質管理というものを認識している．そのような彼らにとって，学会は所属組織のための情報源の一つにはなっても，組織を離れた同志的な貢献や交流の場としてはとらえにくいのではないだろうか．品質管理学会の運営の難しさはニュータウンの自治会のそれと似ているようである．会員の心は，常にそれぞれの故郷（勤務先）の方を向いているのだから．

しかし市民レベルの自治活動が健全に育たない限り真の民主主義の発展はありえず，それが結局は市民にとっての不幸となって返ってくるように，品質管理に関しても「日本での学会活動の定着」なしには，少なくとも品質管理の国際化の潮流の中で日本としてそれなりの主張や貢献をしていくことはおそらく不可能であろう．今は大きな立場から「学会がなくてはできないこと」が問い直されてもいい時機ではないかと考えている．

第203回事業所見学会（本部）ルポ

第203回事業所見学会は「マルチメディアによるシステム修理の実際」をテーマとして，平成7年4月20日，日本電気フィールドサービス㈱ＮＥＦＳ中河原技術センターにおいて開催された．

今回のテーマは製造現場の見学と違ってイメージがつかみにくかったのか申込みが少なく，当日は事故欠席者も出て参加者は4名であった．

それでも同社は，学会からの見学は初めてのケースであるとのことで，内容の豊富なスケジュールをご配慮下さり，泉谷取締役支配人，永倉カスタマサポート本部本部長をはじめ関係者各位の丁重かつ誠意溢れる応対に接し，甚だ恐縮かつ深謝した次第であった．

見学会は，泉谷取締役のご挨拶の後，ビデオによる同社の紹介があり，引き続き「保守サービス支援体制と支援システム」について紹介された．

障害発生前の症状を自動通報させて遠隔診断するALIVE System，障害コールの受付から状況に応じて行動を指令するDISPATCH Systemなど，保守サービス体制がノウハウを集約して高度に確立されているのに感心した．

次いで，ＮＥＣの考えるマルチメディアと取り組み方について説明があり，同社におけるマルチメディア活用事例が数例紹介されたが，斬新な内容であった．

ＭＡＩＤ障害処理支援システムは，東西の拠点と技術支援センターを回線で結んでの実演であった．これは画面に相手の顔が写され，図面やマニュアル，現物などを必要に応じて画面に出して対話していくものでセンターとリアルタイムに共同作業ができ導入効果は大きいとのことである．

休憩後，各施設の見学と質疑応答を行ったが，盛沢山の内容だったので，予定の見学会終了時間を大幅に超過してしまった．

今回の見学において，「保守サービス」が，障害発生時に迅速的確に対応するという主題に加えて，今日，障害の未然防止のためのサポートのウエートが非常に大きくなっていることを認識させられた．

そして，このような要求に応えながらも常に「顧客満足のためのサービス」を追求し，より優れたサービスを提供し続ける同社の企業姿勢に深く感動した．

大津　亘（大津品質経営研究所）

会員証明書発行のお知らせ

4月14日の理事会で，会員証明書の発行がきまりました．証明書の種類は和文及び英文の2種類で，発行は年度会費既納入者に限ります．申込手続きは，会員証明書申込用紙を事務局より入手のうえ，お申込み下さい．手数料は各1,000円でほかに郵送料の実費を徴収します．

なお，ＪＳＱＣニューズNo.177でご案内しました会員カードの発行は，申込希望者が7名であったため取り止めになりましたので，会員証明書の希望に変更される場合は上記により申込み下さい．

Bo Bergman教授・Bob Hunt教授の講演と意見交換会

平成7年3月22日㈬15:00～17:30まで，日科技連本部において，ＱＦＤ国際会議ＩＳＱＦＤ'95に出席のため来日された，Bo Bergman教授（スウェーデン・リンシェビン大学）とBob Hunt教授（オーストラリア・マックワリ大学）の講演会と意見交換会を日本品質管理学会品質教育研究会主催で開催した．

1．Bob Hunt教授の講演，意見交換

教育とＴＱＭ研究会において実施予定段階での論文を報告をした，欧州における連合大学院方式によるＴＱＭ教育について，実際に教育を行っている現段階の状況に関する講演がなされた．

現在は7カ国各1大学ずつの参加で，各大学2，3名の学生が登録されているが，将来は各大学10名，またさらに多くの国の参加を希望しているとのことであった．この欧州全体で学生を交換することの学生側，大学側のメリット，リサーチを行う企業との関係等に関する質疑応答，議論がなされた．

2．Bo Bergman教授の講演，意見交換

オーストラリアで1995年2月に開かれた第1回太平洋ＱＦＤシンポジウムに関する報告，紹介がなされた．

また，オーストラリアにおける品質の考え方の各国との違い，これからの品質教育などについての講演がなされた．講演なされたStakeholder and competitor focus modelにおいてはトップラインに顧客の要求分析があり，逆ピラミッドのボトムにChief Executive Officerを位置づけているところが興味深く，議論がなされた．椿美智子（電気通信大学）

Mr. Chris J. Hakesらとの研究交流会ルポ —ヨーロッパ品質管理賞審査項目を応用した企業の自己診断活動と方針管理—

去る4月18日英国のＱＣ専門家Mr. Chris J. Hakes（イングランド西部大学ブリストル品質センター所長）ら一行4名と本学会会員12名による研究交流会が日科技連で開催された．

まず，Mr. HAKESにより，1988年から，当時，改善のスピードに満足していなかった経営者たちが中心となって，「品質を世界戦略に使う」ことを目的に，ヨーロッパ品質管理賞の審査項目を，企業の体質改善のための強力な道具として，各企業の自己診断に活用する方法を模索し始めていること，そして，そこから生まれた診断項目と診断方法がまとまり，いくつかの企業が導入し，大きなインパクトを与えているという主旨の報告がなされた．また，その診断項目は，プロセス系と結果系の診断項目に大きく分かれその構造を明快に与えながらも，各企業が弾力的に運用できるようにしてあるものであるということが紹介された．

次に，日本の郵政省に当たるTHE POST OFFICE GROUPのMs. Ann Listonから，同社における実施状況が報告された．同社では「BUSINESS EXCELLENCE REVIEW」という名称で，将来，ヨーロッパ品質管理賞を受賞すること，ならびに，同社の体質改善のための乗り物とすることを目的として，トップのリーダーシップの下に導入したこと，そして，今年度は本格的に実施し，その診断結果はFEEDBACK REPORTとして強み弱みと，改善すべき点などがまとめられたということが報告された．現在の推進上の問題点は，この診断指摘事項に対する改善活動と，従来の事業計画との整合が難しいということだが，その点を日本の方針管理の中から研究したいということだった．

一方，日本側からはＮＴＴデータ通信㈱Ｖ・Ｃ推進室の秋田真澄氏から，同社における方針管理の実施状況をその推進部門の立場からの，評価とその活用について報告が行われた．全体的に，活発な討論が行われ，予定した3時間という時間を短く感じさせる充実した交流会であった．　安藤之裕（日科技連・嘱託）

1995年3月，4月の入会者紹介

1995年3月9日および5月17日開催の理事会において，下記のとおり，正会員，準会員，賛助会員の入会が承認された．

（正会員）　25名　　（敬称略）

○五味宗近（エーペックス・インターナショナル），○遠田隆三（エルナー），○増田逸郎（滋賀双葉ビル整備），○加地弘之（アイシン・エイ・ダブリュ），○金児明正，○松村高嗣・渡部長幸（大日本インキ化学工業），○福井正明（富士レビオ），○岡田治正（新日鉄情報通信システム），○関口昌英（富士通），○野元伸一郎（日本能率協会コンサルティング），○矢頃武志（コニカ），○岡本　強・牧野茂夫・古宮志郎・柳沢弘幸・高橋正明・菊地宣勝・加納冨士男（アイシン高丘），○松田　実（日立コンピュータ機器），○中森幸廣（いすゞ自動車），○竹下正生（日本規格協会），○小山棟生・黒宮智孝・清水陽三（アイシン・エイ・ダブリュ工業）

（準会員）　4名

○澤田啓輔（早稲田大学大学院），○立岡　浩（東京大学大学院），○ユナルソ・アナン（山梨大学大学院），○内田智三（中央大学大学院）

（賛助会員）　2社2口

○アイシン・エイ・ダブリュ精密（取締役社長　梶山　哲）○富士写真光機（ＴＱＣ推進室部長　村　精治）

5月17日現在の会員数

正会員：3257名，準会員：54名

賛助会員：248社，273口

行　事　案　内

●第208回事業所見学会（本部）

見学先：東京都目黒清掃工場（東京都目黒区三田2—19—43）住宅街に設けられた最も新しい清掃工場で，エネルギーの再利用に重点が置かれている．見学は公共の団体・学会に限り受入れられている．

日　時：7月14日㈮13時30分～16時

定　員：20名

参加費：会員2,000円，非会員3,000円

申込締切：7月6日㈭

申込方法：同封の参加申込書にご記入のうえ，本部事務局宛ＦＡＸまたは郵送で申込み下さい．

●第206回事業所見学会（中部支部）

見学先：松下精工㈱換気空質事業部春日井工場（愛知県春日井鷹来町4017）

事業内容：空調機器の製造

日　時：6月9日㈮13時45分～16時05分

定　員：100名　会員優先同業他社お断り

申込締切：6月2日㈮到着分までただし定員になり次第締切

参加費：会員2,000円，非会員3,000円

申込方法：後記のとおり

●第51回講演会（中部支部）

日　時：6月12日㈪10時～16時

会　場：名古屋市中小企業振興会館7階　名古屋市千種区吹上2—6—3（地下鉄桜通線吹上より徒歩7分）

内　容：(1)品質とコスト・パフォーマンス　持本志行氏（朝日大学教授）

(2)企業経営とＴＱＭ　笹岡健三氏（ＹＨＰ取締役会長）

(3)新・商品開発＝マーケティング＋ＱＣ　一商品企画七つ道具とは一　神田範明（成城大学教授）

定　員：300名

申込締切：6月5日㈪到着分までただし定員になり次第締切

参加費：会員2,500円，非会員3,500円

申込方法：中部支部宛に会員No.，氏名，勤務先住所，所属，電話No.，を明記してＦＡＸで申込み下さい．

●第207回事業所見学会（関西支部）

見学先：明石海峡大橋・展示館（神戸市垂水区東舞子町2051）

日　時：7月18日㈫13時00分～15時30分

討論ﾃｰﾏ：「明石海峡大橋建設における新技術，新工法」

定　員：40名（厳守）

参加費：会員2,000円，非会員3,000円

申込締切：7月4日㈫

申込方法：同封の参加申込書にて「関西支部」宛に申込み下さい．

●第52回講演会（関西支部）

日　時：7月28日㈮13時00分～16時30分

会　場：コミュニティープラザ大阪3階　コンポホール（大阪市福島3-1-73）

テーマ：「製品安全性とＣＥマーキング」

講演者：中條武志氏（中央大学助教授　理工学部管理工学科）

定　員：150名

参加費：会員2,500円，非会員3,500円

申込方法：参加申込書（同封）またはＦＡＸで会員番号，氏名，勤務先，所属，連絡先，電話番号を明記し関西支部宛申込み下さい．

●「関西ＱＣサロン」開催のお知らせ

関西支部では，各行事では扱い難い課題を取上げ，自由なきめ細かいＱＣ情報を交換・吸収すると共に，会員相互の親睦を深めることを目的とする「関西品質管理懇話会」，愛称「関西ＱＣサロン」を開催することにしました．これまで長年にわたりＱＣに携わってこられた経験豊かな熟年の方々，これからの関西ＱＣ学会の核となられる若い研究者・ＱＣ推進担当者の方々等，気軽にご参加下さい．今後の運営の概略は下記の通りです．

○申込方法：参加希望者は6月16日㈮迄に関西支部事務局にＦＡＸ（06—341—4615）で氏名，連絡先を登録して下さい．

○運営方法：開催は月1回程度，参加費は500円／回・人，当日徴収，親睦会を年1～2回（費用は参加者負担）開催予定等を考えておりますが，各月定例会開催時に今後の運営方法について参加者と協議します．

○第1回開催：

日時：7月7日㈮18時～20時

場所：西日本インテス（大阪市西区）

内容：近藤良夫先生（京都大学名誉教授）による「海外の品質管理事情あれこれ」ほかおよび懇親会

●第51回研究発表会（関西支部）発表募集

日　時：9月12日㈫13時～17時30分

会　場：㈶日本規格協会関西支部

申込期限：

	研究発表・事例発表	発表会参加
申込み締切	6月30日㈮	8月29日㈫
発表要旨締切	6月30日㈮ 200字詰原稿用紙1枚以内 発表申込書が着き次第要旨原稿の書き方等を送付します．	
予稿原稿締切	7月31日㈪ (22字×40行×2段)×4枚以内	

発表申込方法・申込先：

会員No.，氏名（発表者には○印），勤務先，電話No.，ＦＡＸNo.，連絡先を明記の上，発表要旨を添えて関西支部事務局宛．

発表者も参加申込手続きが必要です．

参加申込方法：

会員には7月下旬に研究発表会ご案内（付）参加申込書を送付します．非会員の方は葉書またはＦＡＸで関西支部事務局までご請求下さい．